

○ワークショップ 「都市の OR」

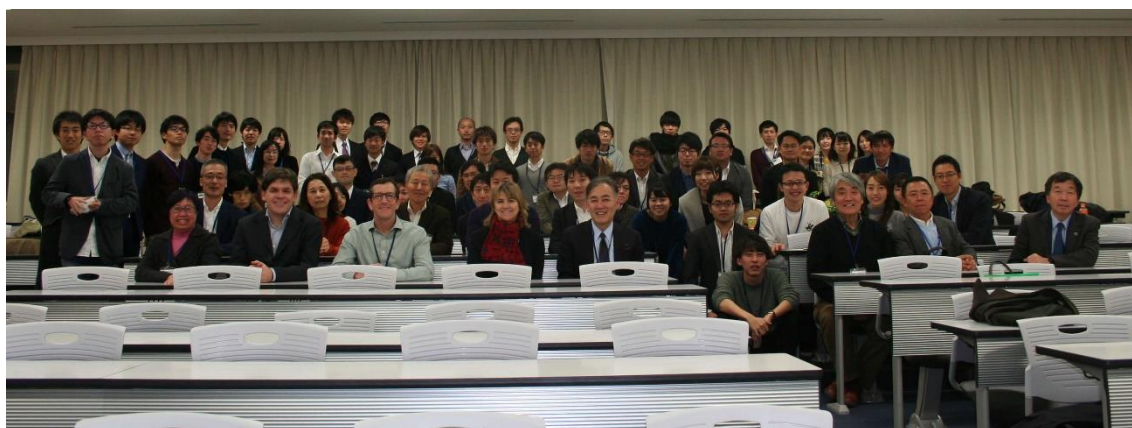
開催責任者 理工学部 三浦英俊

2018年12月8日

12月9日

南山大学 R 棟 4 階 R49 教室

5 階 R56 教室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

都市の諸問題を OR のアプローチにより解決する手法を研究する。とくに、今年は災害支援、人口減少問題、高齢者支援などを研究目標とする。

◇報告者および題目

Prof. Michael Kuby (School of Geographical Sciences & Urban Planning, Arizona State University, USA) : Trip-Based Hydrogen Station Location for Central Connecticut: Combining Regional and Micro Scale Modeling

Prof. Sergio Garcia Quiles (School of mathematics, The University of Edinburgh, Scotland) : Facility location with customer's preferences

Prof. Janny M.Y. LEUNG (Systems Engineering and Engineering Management Dept, The Chinese University of Hong Kong (Shenzhen), China) : Real-time Re-scheduling for Public Transit ほか、全部で 38 件

(プログラム詳細は、<http://www.ms.nanzan-u.ac.jp/uor/2018/index.html> を参照)

◇ワークショップの討論内容

2日間のワークショップで、38件の発表があり、それぞれ5分程度の討論の時間をとった。災害支援、人口減少問題、高齢者支援について多くの研究発表と討論がなされた。今年にはORの過去の理論やモデルを拡張する研究や、新しい分野へ適用する研究が数多く見られた。ビッグデータや人工知能の利用が求められるのは都市問題についても例外ではないが、新しい理論や適用はそれらの基礎となる数学や計算機科学の上にきちんと立脚していることが重要であるという意見が多く出された。